

ミカ  
聖徒伝 157

# 「神のきよめの 裁きは来る」

ミカ書1～2章

イスラエルの不法と背き

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 裁きの宣告 1:1~16

II. 罪状書き 2:1~11

III. 救いの約束 2:12~13

## IV. まとめと適用

心に割礼を受けた者として  
神のいのちを選び

主の御言葉を行おう

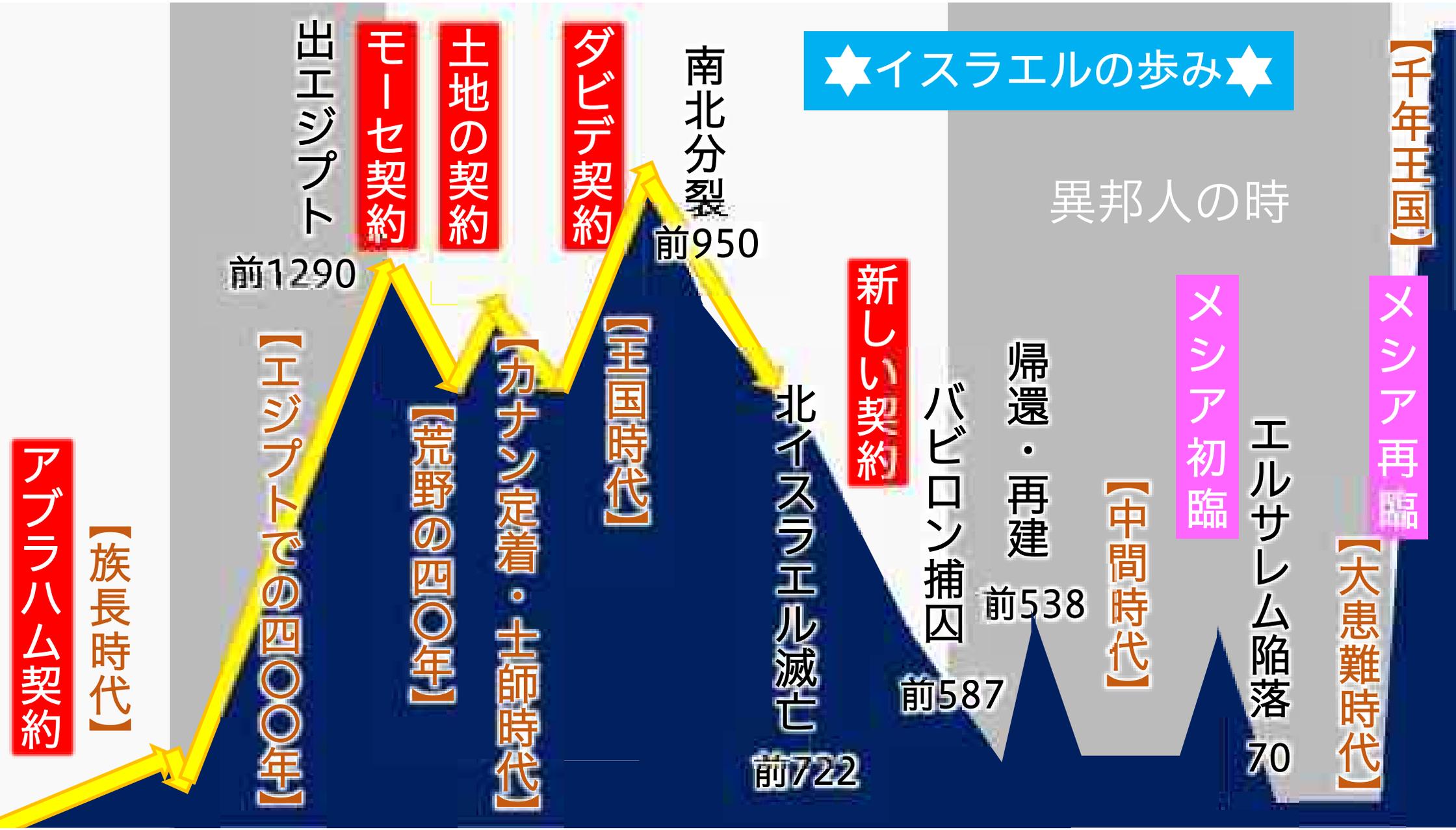


ガテ近郊



神の約束こそが  
その時代の守り

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡  
前722

バビロン捕囚  
前587

帰還・再建  
前538

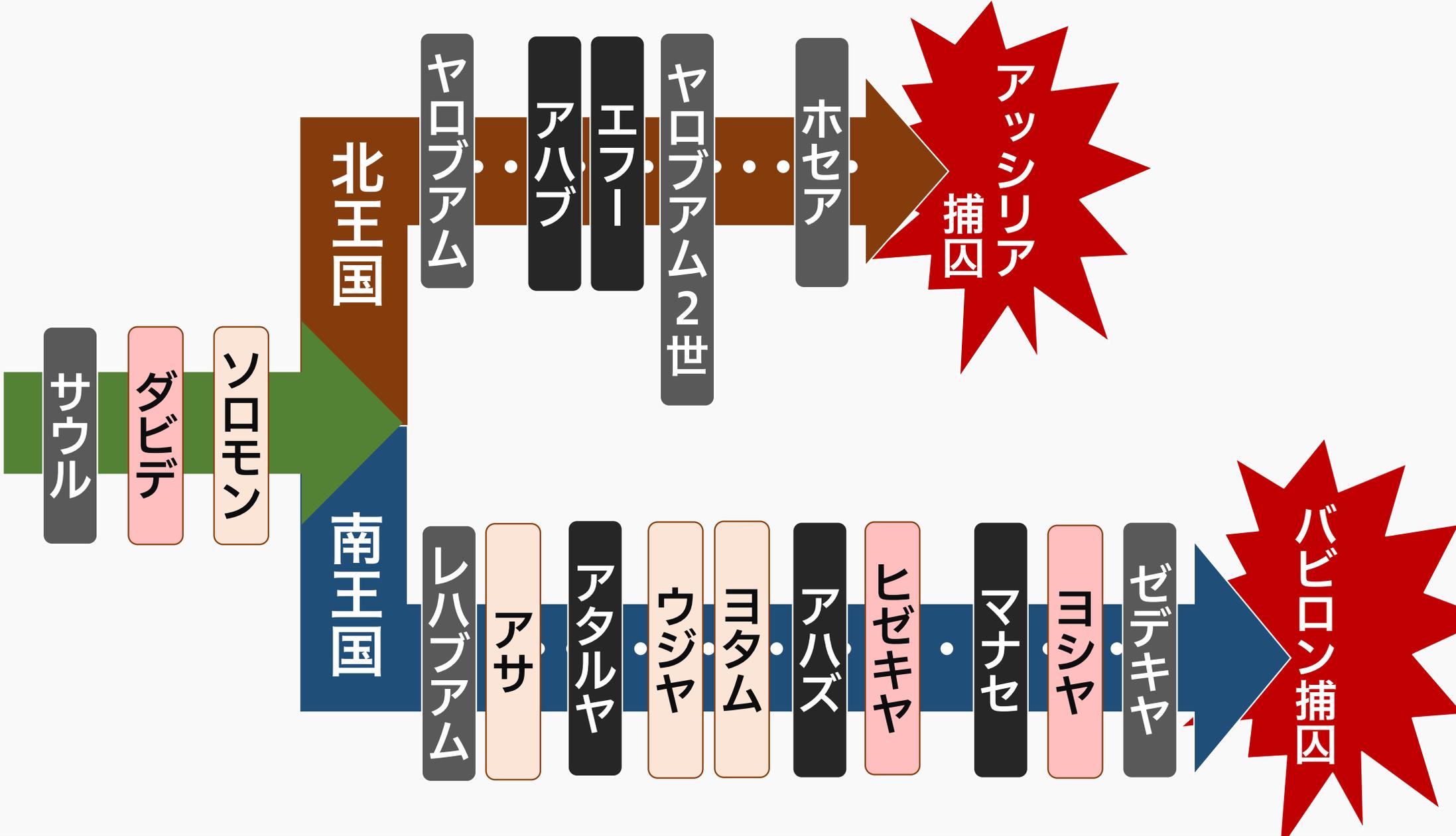
【中間時代】

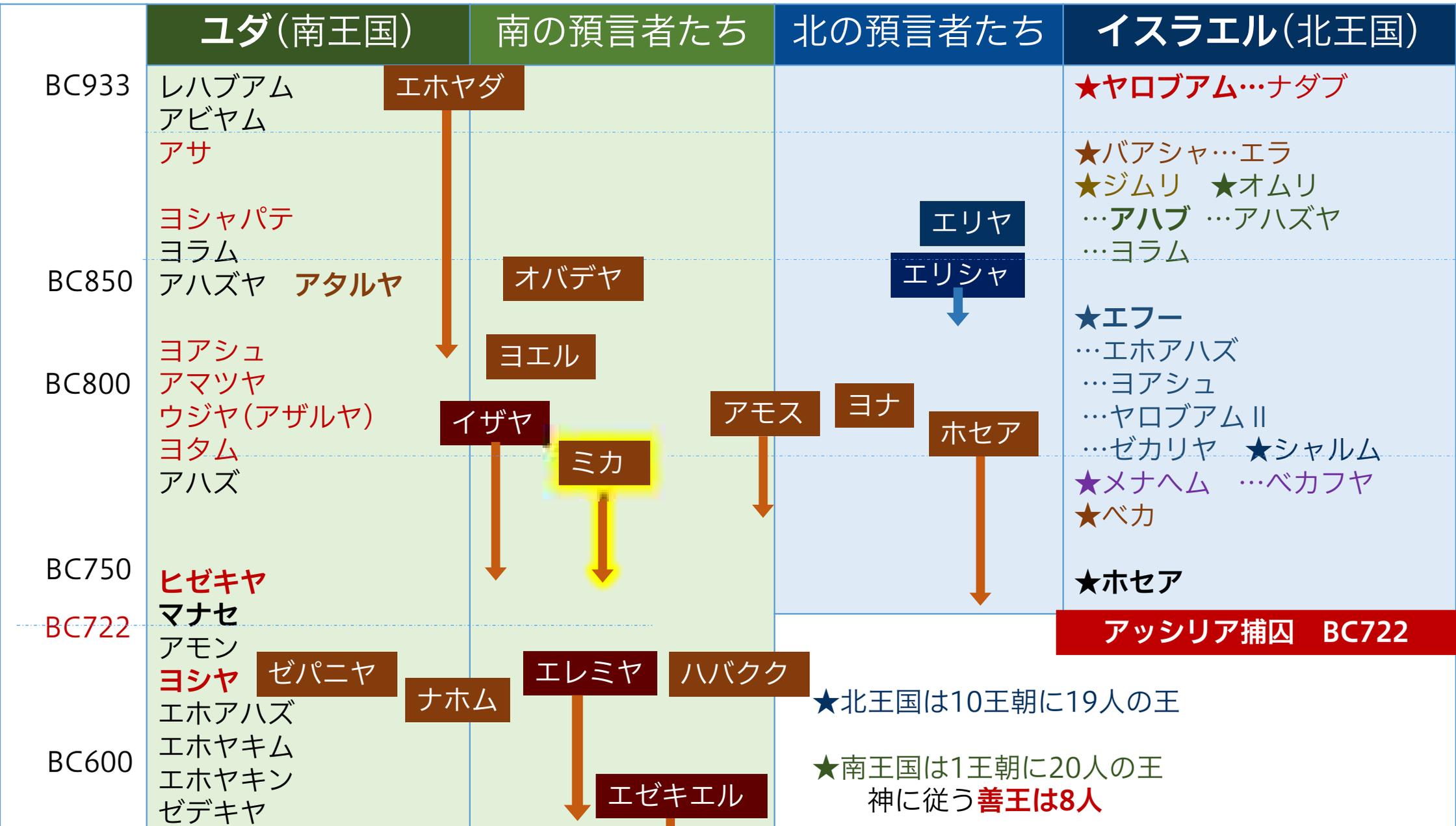
エルサレム陥落  
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】





北王国  
イスラエル

南王国  
ユダ

ホセア

アモス

ベカ

20年

ホセア

9年

混沌の時代

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②

ヤロブアムⅡ

41年

ゼカリヤ

6ヶ月

シャルル

1ヶ月

メナヘム

10年

ベカフヤ

2年

滅亡の時代

南北時代の最盛期

ヨナ

29年

アマツヤ ♡

ウジヤ ♡

52年

ヨタム ♡

16年

アハズ ☠

16年

ヒゼキヤ ♡

29年

ミカ

イザヤ

【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



# 【預言者たちの告げたこと】



南北時代



① 直近の  
苦難

メシア初臨



② 主の日  
大患難時代



③ 回復  
メシア再臨

## 預言者ミカとは？

北王国に捕囚の滅亡が迫る時代の**南王国**で活躍。  
同世代のイザヤは都会人、ミカは地方出身。

出身は**モレシエテ・ガテ** (ガテの所有物)  
ペリシテとの境界の町 (ガテはペリシテの都市)  
善王の時代には、ユダに。  
悪王の時代には、ペリシテに。  
→王国の信仰の状況に常に左右された。

北王国の滅亡、南王国への**神の裁き**を告げた。  
「避けられない神のきよめの裁きが来る」と。



## ミカ書の構成

■ ミカ1:2 すべての民族よ、**聞け**。地とそこに満ちているものたちよ、耳を傾けよ。

➔ 1~2章、3~5章、6~7章。の三区分からなる。  
三区分は、「**聞け(シェマー)**」から始まる。

■ おもな三つの要素。

- ① **裁きの宣告** ……1~2章
- ② **罪状書き** ……3~5章
- ③ **回復の約束** ……6~7章

### 第一区分

…1:1~16

…2:1~11

…2:12~13

※それぞれの区分にも、三つの要素が含まれる。





# I. 裁きの宣告

ミカ書1章1～16節

## まえがき モレシエテ人ミカ ミカ1:1

モレシエテ人ミカ\*にあった【主】のことば。  
これは、ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、彼がサマリアとエルサレムについて見た幻である。

\*原文の冒頭…“主のことば(ダバー ヤハウエ)”

\*“誰が主のようであろうか”

■南王国の辺境の地方の町で生まれたミカは、北王国の滅亡が迫る混沌の時代に、南北に渡って活動し、神のことばを告げた。



## 終末の裁き 主が証人 ミカ1:2

すべての民族\*よ、聞け。地とそこに満ちているものたちよ、耳を傾けよ。【神】である主は、あなたがたのうちで証人となり、主はその聖なる宮から来て証人となられる。

\*“シェマー(聞け)”が冒頭。

\*全人類。民族(アム)は、創11:6が最初。

■神ご自身が証人、検察官、裁判官でもある。

→神の裁きから逃れる者は誰もいない。



**主が全世界、全人類を裁かれる時が来る!!**

## 終末の裁き 裁き主の来臨 ミカ1:3~4

見よ。【主】は御住まいを出、降りて来て\*、地の高い所を踏まれる。

山々は主の足もとに溶け去り、もろもろの谷は裂ける。まるで、火の前の、ろうのように。坂に注がれた水のように。

\*主の直接的な裁き → 世の終わりの裁き

\*主の日、メシアがオリーブ山の上に立つ。

ゼカリヤ14:4



再臨の主イエスが、裁き主、王の王、主の主としてこられる!!

## 終末の宣告 裁き主の来臨 ミカ1:5

これはみな、ヤコブの背きのゆえ、イスラエルの家の罪のゆえだ。「ヤコブの背きとは何か。サマリア\*ではないか。ユダの高き所\*とは何か。エルサレム\*ではないか。」

- **北王国**は、ダンとベテルに金の子牛を据え、人間の王が定めたサマリア\*を都とした。
- **南王国**は、神殿以外の高き所\*で礼拝し、偶像礼拝までそこで行われるようになった。



究極的にメシアを拒絶したイスラエルへの裁きが大患難時代

## 直近の裁き サマリアの末路 ミカ1:6~7

わたしはサマリアを野にある瓦礫の山とし、ぶどうを植える畑とする。その石を谷間に投げ込んで、その基を暴く。

その刻んだ像はすべて打ち砕かれ、儲けはみな火で焼かれる。わたしはその偶像をすべて荒れすたらせる。それらは遊女の儲けで集められたのだから、遊女の儲けに戻る。」

- アッシリア捕囚により徹底的に破壊されたサマリアには、今も廃墟が残るだけ。



サマリアの遺跡

## 直近の裁き 主の嘆き ミカ1:8~9

このゆえに、私は嘆き、泣き叫び、裸足で、裸で歩く。私はジャッカル\*のように嘆き、だちょう\*のように悲しみ泣く。

まことに、その打ち傷は癒やしがたい。それはユダにまで及び、私の民の門、エルサレムにまで達する。

\*どちらも荒野を住みかとする動物。

■重なるのは、荒野で40日断食し、エルサレム入城に涙を流された、イエス・キリストの姿。





## 裁きの宣告 言葉遊び② ミカ1:12~13

まことに、マロテ(苦い)に住む者は、病むほどに幸せを待ち望む。エルサレムの門に、【主】からわざわざいが下ったのだ。

ラキシュ\*(無敵)に住む者よ、戦車に早馬をつなげ\*。そこは娘シオンにとって罪の始まり\*。実に、イスラエルの背きが、あなたのうちに見出されたのだ。

\*メギド以上の堅固な要塞都市だった。

\*指揮官が我先に逃げ出すことになる。

\*ペリシテの偶像礼拝の悪影響を受けた



## 裁きの宣告 言葉遊び③ ミカ1:14～15

それゆえ、あなたは別れの贈り物をモレシエテ・ガテ(贈り物)に与える。アクジブ(欺き)の家々は、イスラエルの王たちにとって欺く者となる。マレシャ(贈り物)に住む者よ、わたしは再び、侵略者をあなたのところへ送る。イスラエルの栄光はアドラム\*まで行く。

\*逃亡中のダビデが拠点としていた町

➔イスラエル全体が逃亡者に!!



## 裁きの宣告 恥を受ける民 ミカ1:16

「頭を剃れ\*。あなたが喜びとする子らのために、その剃ったところを、禿鷲\*のように大きくせよ。彼らは捕らえられて、去って行く\*からだ。」

\*イスラエルの民には屈辱的なこと。

\*屍肉をむさぼる汚れた鳥。

\*アッシリアによる捕囚は、滅亡を免れたユダの数十の町々にも及んだ。





## II. 罪状書き

ミカ書2章1～11節

ラキシユのテル

## 罪状書き 貪欲の罪 ミカ2:1~2

わざわざいだ。不法を謀り、寢床の上で悪を行う者。朝の光とともに、彼らはこれを実行する。自分たちの手に力があるから\*だ。

彼らは畑を欲しがって、これをかすめ、家々を取り上げる。彼らは人とその持ち家を、人とその相続地をゆすり取る\*。

\*神に託された権威を悪用する指導者たち。

\*神の嗣業の地を奪うことは律法が厳禁。

■貪欲は、十戒の第十戒で禁じられた罪。

➔罪の欲望の根源にあるのが、貪欲。



ラキシユのテル

## 裁きの宣告 主のわざわい ミカ2:3

それゆえ、【主】はこう言われる。「見よ。わたしはこういう氏族に、わざわいを下そうと考えている。そこからあなたがたは頭をもたげることでもできず、胸を張って歩くこともできなくなる。それは、わざわいの時だからだ。」

- 神の民に下されるわざわいは、神の懲らしめ。神の力、徹底した裁きを前に、なお頭を上げ、胸を張ることができる者はいない。



## 裁きの宣告 割り当て地の喪失 ミカ2:4~5

その日、あなたがたについて嘲りの声があがり、嘆きの歌が起こって言う。「われわれはすっかり荒らされてしまった。私の民の割り当て地は替えられてしまった。どのようにして私から移され、われわれの畑が背信の者に分け与えられたのか。」

それゆえ、【主】の集会には、あなたのためにくじを引いて測り綱を張る者がいなくなる\*。

\*土地が分け与えられることがなくなる。



## 罪状書き 神の民の拒絶 ミカ2:6~7

「戯言を言うな\*」と彼らは戯言を言う。「そんな戯言を言ってはならない。辱めを受けることはない。」

ヤコブの家がそんなことを言われてよいものか。  
【主】がこれを我慢されるだろうか。これは主のみわざだろうか。私のことばは、まっすぐに歩む者に益とならないだろうか。

\*イスラエル、ユダは、神の預言を拒み続け、  
預言者を迫害し、さらに罪を増し加えてきた。



ラキシユのテル

## 罪状書き 同族からの略奪 ミカ2:8～9

「近ごろ、わたしの民は敵として立ち上がった。あなたがたは、豪華な上着をはぎ取る。安心して通り過ぎていく者、戦いから帰って来る者たちから。

あなたがたは、わたしの民の女たちを、その楽しみの家から追い出し、その幼子たちから、わたしの誉れを永遠に取り去る。」

- イスラエルが同族のユダを攻め、略奪することも度々あった。



## 罪状書き 偽預言者の戯言 ミカ2:10~12

さあ、立ち去れ。ここは憩いの場所ではない。ここは汚れて滅ぼされるからだ。それはひどい滅びだ。もし人が風の赴くままに歩き回り、『私はあなたがたに薦めよう。ぶどう酒と強い酒を\*』と偽って言うなら、その者は、この民に戯言を言う者だ。」

\*この後に及んで、耳障りのよいことしか言わない、偽預言者たちの偽預言のこと。

■最終的に神の裁きを招き寄せるのは、神の教えをねじ曲げ、基本的教理から逸脱し、偽りの教えを述べる**偽預言者、偽教師**たち。





### III. 救いの約束

ミカ書2:12~13

ラキシュのテルに植えられた木

## 救いの約束 主による回復 ミカ2:12

ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者\*を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起こる。

\*残れる信仰者たち。レムナント。

イスラエルの真の信仰者はいつも少数。

- イスラエルが捕囚から解放される時が来る。大患難時代には1/3が生き残り、救われる。



## 救いの約束 再臨のメシア ミカ2:13

打ち破る者\*は彼らの先頭に立って上って行く。  
彼らは門\*を打ち破って進み、そこを出て行く。  
彼らの王\*が彼らの前を、【主】\*が彼らの先頭を進む。」

\*再臨の裁き主、王の王、主の主であるメシア。

\*敵の城壁の門

■悪魔の捕囚であるすべての罪人は、主イエスの福音をただ信じ、主イエスによって解放される。





#### IV. まとめと適用

心に割礼を受けた者として  
神のいのちを選び 主の御言葉を行おう

# 律法の核心 「シェマー(聞け)」

## 申命記6章4～6節

**聞け**、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は**唯一**である。

あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、  
あなたの神、【主】を**愛**しなさい。

私が今日あなたに命じるこれらの**ことば**を心にとどめなさい。

**唯一の主を愛し、律法に従うことが、イスラエルの責務**

# モーセが告げた神の律法の祝福と呪い

「土地の契約」 申命記30章16～18節

もしあなたが、私が今日あなたに命じる命令に聞き、あなたの神、【主】を愛し、主の道に歩み、主の命令と掟と定めを守るなら、あなたは生きて数を増やし、あなたの神、【主】は、あなたが入って行って所有しようとしている地で、あなたを祝福される。

しかし、もしあなたが心を背け、聞き従わず、誘惑されてほかの神々を拝み、これに仕えるなら、

今日、私はあなたがたに宣言する。あなたがたは必ず滅び失せる。あなたがヨルダン川を渡り、入って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことはない。

## 預言者ミカが告げたイスラエルの罪の本質

- イスラエルの罪とは、神の**律法**をことごとく破ったこと。  
→ 偶像礼拝に浸り、隣人から奪い取り、同胞を虐げた。
- 主に背き通せば、最後は約束の土地を追われるとも警告されていた。
- 数々の預言者が、神の言葉の証明である奇跡(しるし)を伴って、王と民に、律法を破った罪を訴え、神の裁きを宣言した。
- イスラエルは、神の言葉を拒み、耳障りのよい偽預言者の言葉から抜け出そうとはしなかった。

**もはや誰にも止められない。神のきよめの裁きは来る。**

## 預言者ミカが告げた救いの希望

■ 捕囚の期間にも、悔い改めた者には神の守りがあり、やがて、解放されて帰還する時が来る。

→ 裁きの期間は限定されており(70年)、救いの道もある。

世の終わりの裁きも期間限定(7年)。最後の救いの機会である。

■ イスラエルの罪により、全人類に裁きが下る、大患難時代にも、信仰者たちがなお残されている。

世の終わりの裁きのただ中でも、主イエスを信じた者は救われる。

■ 大患難時代には、かつてない規模で人々の悔い改めと救いが起こる。イスラエルだけでなく、多くの異邦人も含まれている。

# モーセに告げられていた究極の回復の約束

## 「土地の契約」 申命記30章1～6節

私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたの神、【主】があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、**あなたが我に返し、**あなたの神、【主】に立ち返し、私が今日あなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、いのちを尽くし、**御声に聞き従うなら、**あなたの神、【主】はあなたを元どおりにし、あなたをあわれみ、あなたの神、【主】があなたを散らした先の、あらゆる民の中から、再びあなたを集められる。

# モーセに告げられていた究極の永遠の回復の約束

## 「土地の契約」 申命記30章1～6節

たとえ、あなたが天の果てに追いやられていても、あなたの神、【主】はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ戻される。あなたの神、【主】はあなたの先祖が所有していた地にあなただを導き入れ、あなたはそれを所有する。主はあなたを幸せにし、先祖たちよりもその数を増やされる。

あなたの神、【主】は、あなたの**心**と、あなたの子孫の**心に割礼を施し**、あなたが心を尽くし、いのちを尽くして、あなたの神、【主】を愛し、そうしてあなたが生きるようにされる。

## 世の終わりの裁きが近づく時代の信仰者の心がまえ

- 神のきよめの裁きの時は必ずやって来る。  
人々の心は愚にもつかない作り話に逸れ、神への愛は冷めていく。
- 世の終わりに、偽預言者、偽教師が激増し、教会の中でも偽りの教えは膨らんでいく。人々は耳障りのよい偽りの言葉に浸っていく。
- 新約聖書で最も多いのは、偽りの教えに対する警告。  
主イエスは、人々を惑わす偽教師たちに対し、巨大な石臼を首にかけられて、海の底に沈められた方がましだとすら言われた。
- 「戯れ言を言うな」と、預言者のように脅され、罵られ、侮られても、ひたすら、主の約束の御言葉にしがみついて行くことが求められる。

## ★ 主の前に誠実であり続けよう ★

■ 愛しか語らない偽教師。口先だけで悔い改めない偽善者たち。偽りと背きを重ねるだけの信仰生活は、無意味どころか害悪だ。

■ 障害を抱えた子どもたちに接するほど、厳しく問われる信仰がある。偽物は全く通用しない。嘘偽りは、即、見抜かれるから。口だけ達者で内実が伴わなければ、そこには決して居続けられない。

■ 本当に弱い立場の人は、自分の弱さを言い訳にはしない。言い訳をする人は、それだけの余力と知能がある。責任がある。

■ イスラエルのように、“恵みぼけ”してしまっていないだろうか？ 神のいのちを選び、主の御言葉を行いもって味わい尽くしていこう。

# 神のいのちを選びなさい

「土地の契約」 申命記30章19～20節

私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。  
私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。

あなたは **いのち**を選びなさい。

あなたもあなたの子孫も生き、**あなたの神**、**【主】**を愛し、  
**御声**に聞き従い、**主**にすぎるためである。まことに**この方**こそ  
あなたの**いのち**であり、あなたの日々は長く続く。

# 神のみことばがある恵み

「土地の契約」 申命記30章14節

まことに、**みことば**は、あなたのすぐ近くであり、  
あなたの口であり、あなたの心にあって、  
あなたは**これ**を行うことができる。

「<sup>てん</sup>天の<sup>とう</sup>お父さま。わたしは、あなたに<sup>そむ</sup>背き、<sup>つみ</sup>罪を<sup>かさ</sup>重ねてきました。  
<sup>ひび</sup>日々<sup>おか</sup>犯してしまう<sup>つみ</sup>罪をも<sup>こくはく</sup>告白します。この<sup>つみ</sup>罪をゆるしてください。

わたしは、<sup>かみ</sup>神の<sup>こ</sup>み子イエス・キリストが、  
<sup>つみ</sup>あがな<sup>じゅうじか</sup>し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

<sup>はか</sup>ほうむ

②墓に葬られ、

<sup>みっかめ</sup>ふっかつ

③三日目に復活したこと、を信じます。

<sup>しん</sup>

<sup>わたしじしん</sup>かつての私自身のように、世は、<sup>よ</sup>主の<sup>しゅ</sup>御言葉を<sup>ざ</sup>戯れ言だと<sup>ごと</sup>い

<sup>ひび</sup>日々、<sup>く</sup>悔い改めをもつて、あなたのいのちを<sup>えら</sup>選ばせてください。

わたしが、<sup>しんじつ</sup>真実におのれの<sup>よわ</sup>弱さを<sup>さと</sup>悟り、<sup>う</sup>打ち砕かれていきますように。

<sup>みことば</sup>御言葉に<sup>き</sup>聴き、<sup>おこな</sup>行いをもつて<sup>こた</sup>応える者へと<sup>もの</sup>導いてください。

<sup>しゅ</sup>主イエス・キリストのみ名によって<sup>な</sup>祈ります。　<sup>いの</sup>アーメン」